別記様式第8号（別記1の第6の1、別記2の第5、別記3の第5、別記4の第6、別記5の第6関係）

鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業（都道府県広域捕獲活動支援事業、鳥獣被害防止対策高度化事業）及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告（令和4年度報告）

鳥取県

1　被害防止計画の作成数、特徴等

県内の全市町村で計画を策定している。

計画の対象となっている鳥獣は１１種類（ｲﾉｼｼ、ﾆﾎﾝｼﾞｶ、ﾆﾎﾝｻﾞﾙ、ﾇｰﾄﾘｱ、ｱﾗｲｸﾞﾏ、ﾊｼﾌﾞﾄｶﾞﾗｽ、ﾊｼﾎﾞｿｶﾞﾗｽ、ｱｵｻｷﾞ、ﾀﾞｲｻｷﾞ、ｺｻｷﾞ、ｶﾜｳ）で、本県において大きな被害を出しているイノシシ、ニホンジカ、ヌートリア、カラス類等が対象鳥獣としてあがっている。

各市町村において、被害防除対策（侵入防止柵の整備）、捕獲対策等に関する計画を定め、鳥獣被害防止総合対策交付金（国補助事業）や鳥獣被害総合対策事業（県単補助事業）等を活用して計画に基づいた対策を推進している。

令和4年度に計画の終期を迎えたのは、鳥取市、若桜町、智頭町、八頭町、三朝町、北栄町、南部町、伯耆町、日野郡3町（日南町、日野町、江府町）の11市町で、再評価の対象になったのは岩美町である。

2　事業効果の発現状況

①鳥獣被害防止総合支援事業について

・いずれの市町においても、被害防止計画に関する協議、被害防止計画の実施に係る連絡調整を行うための、農業委員会・農業協同組合・農業共済組合・猟友会などで構成する協議会を組織するなど地域の体制を整備しており、市町村又は協議会が地域の実情に応じて効果が高いと認めた事業について選択的に取り組んでいる。

・鳥取市鳥獣害対策協議会、智頭町鳥獣害対策協議会、八頭町、三朝町、伯耆町、日南町、日野町、江府町といった多くの市町・協議会が侵入防止柵の整備に取り組み、設置地区での被害軽減に寄与している。

・鳥取市鳥獣害対策協議会、智頭町鳥獣害対策協議会、八頭町鳥獣害対策協議会、三朝町鳥獣害対策協議会、南部町鳥獣害対策協議会、伯耆町鳥獣害対策協議会、日野郡鳥獣害対策協議会といった多くの協議会で、捕獲用具の整備に取り組み、設置地区での鳥獣の捕獲や被害の軽減に寄与している。

・北栄町では、実施隊による捕獲活動により鳥獣被害の軽減に寄与している。

②鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業について

・総合支援事業で取り組む北栄町を除き、いずれの市町もこの事業により有害鳥獣の捕獲に取り組んでおり、個体数の抑制や被害の軽減に寄与している。

③鳥獣被害防止都道府県捕獲促進支援事業について

・県が実施した捕獲力アップ研修、技能研修等が、鳥獣被害対策に従事する者の人材育成に役立っている。

3　被害防止計画の目標達成状況

・今回報告を行った市町のうち、鳥取市、八頭町、三朝町、北栄町、南部町、伯耆町、日南町、日野町及び江府町は被害防止計画の軽減目標を達成できたが、若桜町、智頭町及び再評価対象の岩美町については達成できなかった。

・鳥獣被害防止総合支援事業を活用して侵入防止柵の整備を進めた地区では、被害を防ぐことができている一方、被害対策を実施していない地区において被害が拡大している。

・捕獲数の増加により個体数の調整に一定の効果は上げているものの、個体数の増加傾向などにより、被害金額や被害面積が軽減目標を上回った。

4　各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

別紙のとおり

5　都道府県による総合的評価

・鳥獣被害防止総合支援事業（鳥獣被害防止総合対策交付金）や県事業等を活用して、被害防止計画に掲げた被害の軽減目標の達成に向けて、各市町村及び各市町村鳥獣被害防止対策協議会が、地域の実情にあった事業に選択的に取り組んでおり、多くの市町で一定の成果を上げることができた。

・一方、鳥獣の生息地に餌が豊富にあるかどうかといった植生等の自然条件により、年によって農地への鳥獣の出没が多い少ないがあるために、農業被害も年によって多い少ないが出てくるので、目標達成に至らなかった面もあった。

・鳥獣被害防止総合支援事業を活用して侵入防止柵の整備を進めた地区では被害を防ぐことができている一方、被害対策を実施していない地区において被害が拡大している。

・捕獲強化の取組強化による捕獲数の増加により個体数の調整に一定の効果は上げているものの、近隣県からの鳥獣の流入や、近年の積雪不足に伴って越冬できる個体数が増えたこともあって、鳥獣の個体数が増加傾向にあるため、大幅な被害の軽減が困難となっている。

・そこで、農業被害の7割をしめるイノシシ被害の軽減を図るため、令和4年度からイノシシ捕獲（猟期外）に鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業を導入したことで、一定の成果を上げることができた。

・環境対策部局では、推定生息数を加味して捕獲目標数を増加させる第2種管理計画を策定しているが、鳥獣対策部署で取り組む鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業と、環境対策部署で取り組む指定管理鳥獣捕獲等事業等で連携を図りながら取り組んでいく必要がある。

・国においても鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業をはじめとする支援事業の十分な予算確保をお願いしているところであり、県としても限られた予算を効果的に活用するよう、市町村、地域における被害の実態、取組の状況を個別に点検しながら、より効果的な事業実施を指導していく必要がある。

・令和5年度は既存の侵入防止柵の地際点検や、箱わな等の捕獲効果などの検証に取り組むとともに、緩衝帯の整備についても事業化を働きかけていくなど、引き続き農業被害の軽減に努めていく。さらに、近年農業被害が目立つ地区について、被害時に講じていた対策、被害の原因、被害後に講じた（る）対策、今後講じようとしている対策、対策を講じない場合はその理由を調査するなどして具体的な被害の軽減に努めていく。

別紙（各事業実施地区における被害防止計画の達成状況）

事業実施主体名 （協議会名）	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績 被害金額（千円） 目標値	実績値	達成率	被害面積（a） 目標値	実績値	達成率	事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
鳥取市鳥獣害対策協議会	鳥取市	R2～R4	イノシシ シカ	捕獲檻の設置	R2　箱わな 44基、囲いわな 8基 R3　箱わな 74基、くくりわな 5基 センサーカメラ 7基、捕獲玉網 1基 R4　箱わな 44基、囲いわな 2基	鳥取市鳥獣害対策協議会			R2は国の集中捕獲キャンペーンによりイノシシ捕獲に取り組み499頭捕獲した。また、R4からのイノシシ捕獲に対する交付金活用により1356頭捕獲した。 シカはR2が2230頭（R1比 103%）、R3が2292頭（R2比 103%）、R4が2644頭（R3比 115%）を捕獲し、また侵入防止柵は3カ年で整備した24地区で設置箇所への侵入を防ぎ、生息数が増加する中、捕獲による農作物等の被害の減少につながった。 ジビエ冷蔵庫の設置により、有害捕獲した個体のジビエによる有効利用の一助になった。 減容化施設は、R4の処理頭数は2260頭で、施設整備前の焼却処理頭数2402頭（R2）と同程度となり、代替施設としての役割を果たし、捕獲従事者の埋設労力の軽減、シカ捕獲増による農作物被害軽減につながった。	対象鳥獣：全獣種 12,820	16,535	32%	992	1038	89%	イノシシ対策として侵入防止柵、捕獲檻導入を実施し、設置地域では被害は減った一方、市全体ではR2年度は被害が増加、R3、R4年度は減少した。捕獲対策ではR4年度は大雪による影響で捕獲頭数が減ったが、当初目標値を上回り一定の成果があった。シカの捕獲頭数は年々増え、被害防止に一定の成果があった。結果的に被害軽減目標は未達成となったが、侵入防止柵の設置前の被害、未整備地域での新たな被害発生、更には既存柵の整備地域でも経過年数の長いものでー部管理不備による再被害が考えられる。R3年度に減容化施設の整備をしたことで、捕獲した鳥獣の処理を行うことにより、捕獲従事者の埋設処理の労力軽減を図り、捕獲頭数の増加が図られ、不法投棄を防止し、環境面への配慮が図られた。なお、急増しているシカ処理に対して処理能力を超えており、施設の増設、食肉加工施設の整備が必要であり、設置場所も含めて検討が必要である。	侵入防止柵の設置や捕獲檻導入により一定の成果が得られているが、被害防止計画における被害軽減目標に達していない。今後も被害発生が想定されることから、被害状況を十分に把握し，有効な取り組みを行っていく必要がある。捕獲従事者の高齢化や、捕獲従事者の不在地域もあることから、鳥獣被害対策実施隊の活用と併せ、捕獲従事者の育成、捕獲技術の向上及びICT等の技術の活用なども推進していくことが必要である，また、各地区から要望が出てから事業の実施に至るまで速やかに行える体制づくりが望ましい。	一定の事業実施効果は現れていると考えられるが，個体数の増加への対応や被害地区に応じた適切な対応が十分できていないのではないかと思われるので、引き続き、侵入防止柵の未整備地区への設置の推進、既存柵の適切な維持管理や、捕獲檻による捕獲強化、捕獲圧の強化により個体数を減らす取り組みが必要である。
			サル		R2　囲いわな 1基 R3　囲いわな 1基													
			イノシシ シカ	侵入防止柵の設置	R2 ﾜｲﾔｰﾒｯｼｭ柵　L=7,880m 電気柵 L=5,500m R3 ﾜｲﾔｰﾒｯｼｭ柵　L=　8,870m 電気柵 L=2,199m R4 ﾜｲﾔｰﾒｯｼｭ柵　L= 13,256m		R2.10.28 R3.10.30 R4.10.14											
			イノシシ シカ	処理加工施設整備	R4 解体処理施設（冷蔵庫） 久松商事 3.24㎡		R4.12.27	100%										
			シカ イノシシ	有害鳥獣の捕獲	R2 シカ 2,230頭、イノシシ 499頭 R3 シカ 2,292頭 R4 シカ 2,644頭、イノシシ1,356頭	鳥取市												
鳥取市（鳥取市鳥獣害対策協議会）			イノシシ シカほか	処理加工施設整備	R3 減容化施設 228㎡　処理能力 160kg日／基		R4.4.1	100%										
若桜町鳥獣害対策協議会	若桜町	R2～R4	シカ イノシシ	情報管理の効率化	R3 ﾄﾚｰｻﾋﾞﾘﾃｨｰ工程記録対応の処理加工施設（特定計量器）	若桜町鳥獣害対策協議会	R4.2.1		特定計量器とハンディスキャナを導入したことにより、食肉処理した個体情報の追跡が可能となり、29工房の生産・販売効率が向上した。	対象鳥獣：全獣種 610	670	60%	21	30	0%	機器の導入で、狩猟から処理、食肉用で販売、消費に至るまでの安全性確保が推進された。若桜町ジビエの消費拡大と安全性維持のため、管理体制の継続は不可欠で、消費拡大は受入れ体制の維持、捕獲従事者のモチベーション維持による捕獲強化につながる。	29工房に当該機器が導入されたことで、購入した肉を誰が捕獲し、どこでどのように処理されたかが分かり、信頼性が高くなった。若桜町のジビエは高い評価を得ているが、安心できるジビエの提供を続けるため、今後もこの体制を維持が望まれる。	基準年の被害が少なかったこともあり、被害も減少傾向にはあるが、個体数の増加も懸念されるので、引き続き、被害発生地区に対する適切な対策を講じるとともに、捕獲圧の強化による個体数を減らす取り組みを継続する必要がある。
				その他	R3 忌避資材の導入 ｱﾆﾏﾙﾋﾞｰ3本													
若桜町（若桜町鳥獣害対策協議会）				有害鳥獣の捕獲	R2 シカ　656頭、イノシシ　13頭 R3 シカ 1,168頭 R4 シカ　703頭、イノシシ　32頭	若桜町			シカはR2が656頭（R1比 178%）、R3が1168頭（R2比 178%）、R4が703頭（R3比 60%）を捕獲し、生息数が増加する中、捕獲による農作物等の被害の減少に一定の効果があった。							被害軽減目標は未達となった。被害は減少傾向に転じたとみられるが、侵入防止柵整備地域で被害は軽減される一方、未整備地域や侵入防止対策が難しいイチゴで被害が発生。捕獲はイノシシは減少傾向、シカは横ばいか増加傾向で、被害の減少幅からすると一層の捕獲強化が不可欠。柵の整備推進と捕獲効率の向上等が必要である。	農作物被害はシカ・イノシシの掘り起こし、食害等の被害は減ってきたが、個人農家の小中動物の被害対策が絶えない。計画目標の達成には農家・役場・猟師の連携が必要である。	
智頭町（智頭町鳥獣害対策協議会）	智頭町	R2～R4	シカ イノシシ	有害鳥獣の捕獲	R2 シカ　498頭、イノシシ　22頭 R3 シカ　511頭 R4 シカ　443頭、イノシシ　11頭	智頭町			シカはR2が498頭（R1比 144%）、R3が511頭（R2比 103%）、R4が443頭（R3比 87%）を捕獲し、また侵入防止柵は3カ年で整備した8地区で設置箇所への侵入を防ぎ、生息数が増加する中、捕獲による農作物等の被害の減少に一定の効果があった。	対象鳥獣：シカ、イノシシ 252	1,638	0%	22	116	0%	被害軽減目標は未達となった。侵入防止柵の整備地区では被害は低減したが、未整備地区の被害が多発し、被害区域が広域化している。捕獲はイノシシは増加傾向、シカは横ばいか増加傾向であり一層の捕獲強化が不可欠。被害軽減のためには、柵の整備強化と適切な管理による侵入防止効果の維持のほか、柵と捕獲わなの一体的な運用による捕獲効率の向上、地域の意識啓発による集落全体での鳥獣被害軽減に向けた取組が必要である。	柵や捕獲檻の設置により整備地区の農作物被害が軽減しており、整備地区の農家の耕作意欲の維持・向上に繋がっている一方で、これまで被害の少なかった未整備地区へ侵入するようになり、未整備地区の農家から耕作の意欲の低下が聞かれるようになり、柵の要望も増えてきている。今後も未整備地区の整備を進め、より高い効果を目指し、柵や捕獲檻等の適切な管理と、一体的な運用による効率的な有害個体の捕獲などの実施を図っていく必要がある。	基準年の被害は少なかったが、目標年では被害が増えている。侵入防止策の整備には一定の事業実施効果が認められることから、被害地区に対する整備の推進を図るとともに、引き続き、捕獲圧の強化による個体数を減らす取り組みを継続する必要がある。
智頭町鳥獣害対策協議会			シカ	侵入防止柵の設置	R2 ﾜｲﾔｰﾒｯｼｭ柵　L=　660m R3 ﾜｲﾔｰﾒｯｼｭ柵　L=　452m R4 ﾜｲﾔｰﾒｯｼｭ柵　L=4,144m 電気柵 L=　700m	智頭町鳥獣害対策協議会	R3.3.19 R3.10.21 R4.11.30													
			シカ イノシシ	捕獲檻の設置	R2 箱わな　1基 R3 箱わな　1基、センサーカメラ 3基 小型捕獲檻 1基 R4 箱わな　4基、センサーカメラ 4基													
八頭町（八頭町鳥獣害対策協議会）	八頭町	R2～R4	シカ イノシシ	侵入防止柵の設置	R2 ﾜｲﾔｰﾒｯｼｭ柵　L= 1,582m R3 ﾜｲﾔｰﾒｯｼｭ柵　L=　880m R4 ﾜｲﾔｰﾒｯｼｭ柵　L= 3,000m	八頭町	R3.3.22 R3.12.16 R5.3.27		R2は国の集中捕獲キャンペーンによりイノシシ捕獲に取り組み211頭捕獲した。また、R4からのイノシシ捕獲に対する交付金活用により398頭捕獲した。 シカはR2が2131頭（R1比 108%）、R3が2130頭（R2比 100%）、R4が2348頭（R3比 110%）を捕獲し、また侵入防止柵は3カ年で整備した4地区で設置箇所への侵入を防ぎ、生息数が増加する中、捕獲による農作物等の被害の減少につながった。 大型箱わなでは、R2導入の20基が3ヵ年で529頭、R3導入の13基が2ヵ年で244頭、R4導入の13基で1ヵ年に52頭を捕獲するなどして、被害額目標の156%、被害面積目標の203%達成につなげた。	対象鳥獣：全獣種 5,649	4,869	156%	284	253	203%	捕獲活動や檻設置、侵入防止柵の整備等により、被害防止計画に定めた被害金額・面積ともに軽減されたものの、被害金額の達成率が低調だった。シカ・イノシシによる食害の部分が大きいため、侵入防止柵の整備推進に努めつつ、シカ捕獲頭数は今和元年度から増加で推移していることから、引き続き取り組みを推進していく必要がある。	捕獲活動や侵入防止柵の整備等の対策が推進されており、イノシシの捕獲頭数はやや減少傾向にあるが、シカの捕獲頭数は各年2,000頭前後で推移している。農作物被害の軽減のため、引き続き捕獲活動を推進するとともに、野生動物は県境・町境関係なく移動しているため、広域的な野生動物の生息数把握が必要と考える。	被害軽減目標を上回っており、事業実施効果は現れていると考えられるので、引き続き、侵入防止策の未整備地区への設置、捕獲檻やセンサーカメラを活用した効果的な捕獲や、捕獲圧の強化による個体数を減らす取り組みを継続する必要がある。
八頭町鳥獣害対策協議会			シカ イノシシ	捕獲檻の設置 講習会等	R2 箱わな　20基、獣ｻｲｽﾞ判別センサー式自動捕獲ｼｽﾃﾑ 15基 R3 箱わな　13基、獣ｻｲｽﾞ判別センサー式自動捕獲ｼｽﾃﾑ　5基 R4 箱わな　13基、獣ｻｲｽﾞ判別センサー式自動捕獲ｼｽﾃﾑ 10基 R2 煙火講習会	八頭町鳥獣害対策協議会														
			ヌートリア アライグマ		R3 箱わな　7基													
三朝町（三朝町鳥獣害対策協議会）		R2～R4	シカ	有害鳥獣の捕獲	R2 シカ　507頭、イノシシ　129頭 R3 シカ　674頭 R4 シカ　857頭、イノシシ　290頭	三朝町			R2は国の集中捕獲キャンペーンによりイノシシ捕獲に取り組み129頭捕獲した。また、R4からのイノシシ捕獲に対する交付金活用により290頭捕獲した。 シカはR2が507頭（R1比 249%）、R3が674頭（R2比 133%）、R4が857頭（R3比 127%）を捕獲し、また侵入防止柵は3カ年で整備した7地区で設置箇所への侵入を防ぎ、生息数が増加する中、捕獲による農作物等の被害の減少につながった。	対象鳥獣：イノシシ 5,513	4,737	133%	438	435	102%	被害軽減目標は達成できた。捕獲事業と防護柵等の設置により、捕獲頭数はシカが大幅に増加するなどにより、被害額の減少など目標を達成できた。しかしながら、農家の実感として、対象鳥獣の増加を訴える声が依然として多いことから、今後も同様の対策を継続していく。但し、農家の高齢化や人口減少など、対策を継続していくための課題が多くある。	イノシシ捕獲頭数は近年減少しているが、被害軽減目標達成するなど個体数を減らす対策はできているが、一方でシカによる被害も増えている。今後は被害を受けた農家の意欲低下や侵入防止策の設置・維持・管理を継続していくことが負担となっている集落があるなど今後の課題も多くあるため、従来からの対策に加えて新たな支援の必要がある。	被害軽減目標を上回っており、事業実施効果が発現していると考えられるが、個体数の増加が懸念されるので、引き続き、対策の徹底が必要である。
			イノシシ	捕獲檻の設置	R2 箱わな　2基 R3 箱わな　5基	三朝町鳥獣害対策協議会			導入した箱わな7基は、被害発生地区に貸出し、4頭の捕獲につながった。									
三朝町鳥獣害対策協議会			イノシシ	研修会の開催	R4 有害鳥獣防護柵設置研修会													

別紙（各事業実施地区における被害防止計画の達成状況）

事業実施主体名 （協議会名）	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績 被害金額（千円） 目標値	実績値	達成率	被害面積（a） 目標値	実績値	達成率	事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
北栄町鳥獣害対策協議会	北栄町	R2～R4	シカ、イノシシ、ヌートリア、カラス、アナグマ等	個体数の調整	R2 実施隊捕獲活動　102回 R3 実施隊捕獲活動　110回 R4 実施隊捕獲活動　133回	北栄町鳥獣害対策協議会			鳥獣交付金の有害鳥獣捕獲活動により年間100回以上出役し、有害鳥獣の捕獲として、イノシシ26頭、カラス129羽、ヌートリア89頭、アナグマ9頭、シカ6頭を捕獲したことで、有害鳥獣の個体数調整が図られ、農業被害等の軽減につながった。	対象鳥獣：イノシシ、カラス、タヌキ、アナグマ、ヌートリア 1498	666	229%	371	60	296%	被害防止計画での被害軽減は目標を達成することができたが、町内の広範囲にわたり被害が発生していることもあり、引き続き積極的な捕獲活動等を実施していく。	有害鳥獣捕獲は取り組んだ分だけは確実に成果が上がるが、捕獲しないと個体数が増えていくので、継続して捕獲活動に取り組む必要がある。	被害軽減目標を上回り、事業実施効果が発現していると考えられるが、生息域の拡大も懸念されるので、引き続き、捕獲活動の取り組みを継続する必要がある。
南部町鳥獣害対策協議会	南部町	R2～R4	イノシシ	捕獲檻の設置	R2 箱わな　2基、ｾﾝｻｰｶﾒﾗ　2基 R3 箱わな　2基	南部町鳥獣害対策協議会			大型箱わな4基とセンサーカメラ2基の導入により、イノシシ63頭を捕獲し、生息数の増加を防いだ。	対象鳥獣：イノシシ、カラス、ヌートリア 1105	1482	0%	141	130	131%	イノシシ被害について計画目標を達成できなかった。侵入防止柵の強度が弱い箇所からの侵入等が考えられるため、農家等に対して助言を行い被害防止を図る。シカは被害が少なく、生息数も少ないと考えており、引き続き生息数の増加を防ぐ目的で捕獲活動を継続していく。	今年度になって武信・道河内地区でもイノシシ被害が発生しており、侵入防止柵を延長する等しているが、補助事業を活用した対策を行っていただきたい。（西伯地域農事実行組合長会 会長 糸田雅樹）	被害額が軽減目標を上回っている。捕獲の取り組みには一定の事業効果があると認められるので、既存柵の適切な維持管理や捕獲檻の整備、捕獲圧の強化による個体数を減らす取り組みを継続する必要がある。
			ヌートリア		R2 箱わな　7基 R3 箱わな　4基				小型箱わな11基の導入により、57頭を捕獲し、生息数の増加を防いだ。									
南部町（南部町鳥獣害対策協議会）			シカ イノシシ	有害鳥獣の捕獲	R2 シカ　5頭、イノシシ　100頭 R4 シカ　9頭、イノシシ　278頭				R2は国の集中捕獲キャンペーンによりイノシシ捕獲に取り組み100頭捕獲した。また、R4からのイノシシ捕獲に対する交付金活用により278頭捕獲した。									
伯耆町（伯耆町鳥獣害対策協議会）	伯耆町	R2～R4	イノシシ	侵入防止柵の設置	R2 ﾜｲﾔｰﾒｯｼｭ柵　L=2,300m	伯耆町	R2.9.30		R2は国の集中捕獲キャンペーンによりイノシシ捕獲に取り組み125頭捕獲した。また、R4からのイノシシ捕獲に対する交付金活用により256頭捕獲した。侵入防止柵を整備した間地地区では、イノシシの侵入を防止でき一体整備した捕獲檻でR4にイノシシ4頭捕獲するなど一定の効果あった。	対象鳥獣：イノシシ、ヌートリア 1,202	1462	78%	138	132	104%	被害面積は目標を達成し、被害額も目標の7割となり、これまでの被害防止対策が効果を発揮している。捕獲檻の設置により捕獲も進んでいるが、設置場所の検討などより効果的な運用を行うための対策が必要である。また、侵入防止柵の設置地域は被害が減少している一方で、未設置地域でのイノシシの被害報告が増える傾向があるので、侵入防止柵だけではなく、捕獲檻の効率的な活用を含め、一体的な被害対策の検討が必要である。	被害面積は目標を達成し、被害額も前回期間と比較し改善しているが、日光地区でも引き続きイノシシによる農作物被害が発生している。また、シカの生息範囲が県東部から徐々に広がっており、当地区でも被害報告、捕獲数も増加傾向にある。今後、被害拡大が懸念されるため、イノシシ対策と合わせ更なる被害軽減に向けた対策の実施、計画目標の達成にむけた事業実施に期待する。	被害軽減目標を概ね達成はしているが、箱わな設置地区への事業効果が十分確認できていないなど不備が認められるので、地区要望に対しても事業効果を勘案しながら、実の上がる取り組みを行うことが必要である。
			シカ イノシシ	有害鳥獣の捕獲	R2 シカ 10頭、イノシシ　125頭 R3 シカ 13頭 R4 シカ 16頭、イノシシ　256頭													
伯耆町鳥獣害対策協議会			イノシシ	捕獲檻の設置	R2 箱わな　13基 R3 箱わな　20基 R4 箱わな　10基	伯耆町鳥獣害対策協議会												
日南町（日野郡鳥獣害対策協議会）	日南町	R2～R4	イノシシ	侵入防止柵の設置	R2 ﾜｲﾔｰﾒｯｼｭ柵　L=5,502m 電気柵　L=2,707m R3 ﾜｲﾔｰﾒｯｼｭ柵　L= 14,585m 電気柵　L=3,578m R4 ﾜｲﾔｰﾒｯｼｭ柵　L= 5,950m 電気柵　L= 2,180m	日南町	R3.2.13 R2.10.22 R4.3.3 R4.3.4 R4.11.5 R4.8.14		R2は国の集中捕獲キャンペーンによりイノシシ捕獲に取り組み123頭捕獲した。また、R4からのイノシシ捕獲に対する交付金活用により398頭捕獲した。イノシシによる被害が恒常的であることから、整備事業において集落ごとに侵入防止柵の設置を進めたこと、交付金を活用するなどして有害捕獲を実施したこと等により、農作物被害面積が目標の7割を達成した。	対象鳥獣：全獣種 1961	2389	49%	225	252	72%	被害軽減目標は面積で70%まで達成できたが、金額を含め未達であった。侵入防止柵の整備により、整備済地域では被害が減少傾向にあるが、イノシシの個体数は減少しておらず、未整備地域での被害が増加している。イノシシの捕獲数は近年横ばいで、今後更に未整備地域への柵の整備や樹周辺への捕獲檻設置による効果的な捕獲が必要である。今後は引き続き未整備地区への柵整備を進め、柵の経年劣化や維持管理が不十分な地域へは管理指導を継続し、被害低減を進めていきたい。	イノシシの捕獲頭数は近年横ばいであり、十分な農業被害の抑制や目標達成には至っていないが現状である。今後もさらにイノシシや中型獣による被害が増えると予想されるので、侵入防止柵の未整備地区への導入や柵の適切な管理、有害捕獲の推進を継続していくことが必要である。	目標を下回っているが、侵入防止策の事業効果は認められるので、引き続き、侵入防止策の未整備地区への設置の推進と捕獲檻による効果的な捕獲や、捕獲圧の強化による個体数を減らす取り組みを継続していく必要がある。
			シカ イノシシ	有害鳥獣の捕獲	R2 シカ　6頭、イノシシ　123頭 R3 シカ 15頭 R4 シカ 25頭、イノシシ 398頭													
日野郡鳥獣害対策協議会			シカ イノシシ アナグマ	捕獲檻の設置	R2 箱わな 13基、捕獲確認ｼｽﾃﾑ 親機 1基、子機 13基 R3 箱わな　6基、捕獲確認ｼｽﾃﾑ 17基 R4 箱わな　8基、捕獲確認ｼｽﾃﾑ 親機 2基 R3 箱わな 30基	日野郡鳥獣害対策協議会（日野郡共通）												
			イノシシ、シカ、サルほか	被害確認等	R2 煙火講習会 被害状況等確認等 R3 煙火講習、鳥獣対策技術講習会・コーディネータ育成研修 被害状況等確認等 R4 煙火講習会 被害状況等確認等													
日野町（日野郡鳥獣害対策協議会）	日野町	R2～R4	イノシシ	侵入防止柵の設置	R2 ワイヤーメッシュ柵　L=4,930m R3 ワイヤーメッシュ柵　L=2,460m R4 ワイヤーメッシュ柵　L=7,170m	日野町	R3.3.25 R4.3.24 R5.3.28		R2は国の集中捕獲キャンペーンによりイノシシ捕獲に取り組み154頭捕獲した。また、R4からのイノシシ捕獲に対する交付金活用により143頭捕獲した。イノシシによる被害が大勢を占め、水稲の食害及び踏み付けが主であるが、侵入防止柵の整備により被害抑制が図られており、農作物被害面積及び被害額は目標値に対し達成率は200%を達成した。	対象鳥獣：全獣種 1753	840	222%	159	76	220%	被害軽減目標を達成できた。鳥獣被害はイノシシによるもので、水稲の食害、踏み付け及び畦畔等の掘り起こしが主であるが、柵の設置により整備地区の被害は抑制されている。しかし、未整備地区の無防備な農地において被害が多発しており、引き続き柵の整備や捕獲圧を高めることにより、被害低減を図る必要がある。	侵入防止柵の設置により、水稲等の農作物被害を防ぐことができた。しかし、柵外の周辺農地においては、掘り返し等の被害が散見されるため、主に農地への侵入防止と加害獣の捕獲を図る必要がある。	被害軽減目標を大きく上回ることができたが、侵入防止策や捕獲檻の事業効果は認められるので、引き続き、未整備地域への侵入防止策の設置と捕獲檻による捕獲の推進、捕獲圧の強化による個体数を減らす取り組みを継続していく必要がある。
			シカ イノシシ	有害鳥獣の捕獲	R2 シカ 42頭、イノシシ 154頭 R3 シカ 45頭 R4 シカ 53頭、イノシシ 143頭													
日野郡鳥獣害対策協議会					前項に同じ	日野郡鳥獣害対策協議会（日野郡共通）												
江府町（日野郡鳥獣害対策協議会）	江府町	R2～R4	イノシシ	侵入防止柵の設置	R2　ワイヤーメッシュ柵　L=4,388m R3　ワイヤーメッシュ柵　L=2,212m	江府町	R2.12.7 R3.12.24		R2は国の集中捕獲キャンペーンによりイノシシ捕獲に取り組み128頭捕獲し、捕獲数がピークになった。また、R4からのイノシシ捕獲に対する交付金活用により143頭捕獲し、前年度落ち込んだ捕獲数がR4は少し回復した 。農地被害の大半は、イノシシによる水稲の踏み付け、掘り起しであるが、侵入防止柵の整備により、農作物被害面積は、目標値125aに対して大きく下回り60aとなり、鳥獣被害が大きく減少した。	対象鳥獣：全獣種 1608	665	237%	125	60	220%	被害軽減目標を達成できた。侵入防止柵整備により整備済の区域で被害が減少する一方、未整備地域のほか集落柵の整備地域でも破損発見の遅れや見落としにより被害が継続している。引き続き未整備地区への柵整備や捕獲檻等による農地周辺での捕獲や誘因環境の除去等も行い、被害低減を効果的に進めていきたい	多くの地区で柵整備が進んでいるが、未整備地区は被害が増大し、早期に整備された地区は老朽化し適正管理ができていない地区では被害が発生している。柵整備や維持管理、捕獲駆除等の対策の更なる推進により被害を減らすことが必要である。	被害軽減目標を大きく上回ることができたが、侵入防止策や捕獲檻の事業効果は認められるので、引き続き、未整備地域への侵入防止策の設置と捕獲檻による捕獲の推進、捕獲圧の強化による個体数を減らす取り組みを継続していく必要がある。
			シカ イノシシ	有害鳥獣の捕獲	R2 シカ 40頭、イノシシ 128頭 R3 シカ　77頭 R4 シカ 106頭、イノシシ 143頭													
日野郡鳥獣害対策協議会（日野郡各町共通）					前項に同じ	日野郡鳥獣害対策協議会（日野郡共通）												
【再評価】																		
岩美町鳥獣被害防止対策協議会	岩美町	R1～R4	イノシシ、シカ	侵入防止柵の設置	R2 電気柵　L=4,338m R3 ワイヤーメッシュ柵　L=1,430m R4 ワイヤーメッシュ柵　L=4,341m 電気柵　L=7,119m	岩美町鳥獣被害防止対策協議	R2. 9.8 R4. 1.20 R5.3.30 R5.3.30		R2は国の集中捕獲キャンペーンによりイノシシ捕獲に取り組み109頭捕獲した。また、R4からのイノシシ捕獲に対する交付金活用により350頭捕獲した。 シカはR2が769頭（R1比 141%）、R3が1027頭（R2比 134%）、R4が1378頭（R3比 134%）を捕獲し、また侵入防止柵は3カ年で整備した10地区で設置箇所への侵入を防ぎ、生息数が増加する中、捕獲による農作物等の被害の減少に一定の効果があった。	対象鳥獣：イノシシ、シカ 2,166	4,459	0%	197	405	0%	被害軽減目標を達成できていない状況。侵入防止柵が未整備地域ではイノシシやシカによる食害が引続き発生、進入防止柵の整備地域では被害は確実に軽減されていると思われるが、イノシシ対策のみでシカ対策がされていない地域ではシカの食害が発生している。侵入防止柵付近に設置した捕獲檻等による捕獲が進んでいない地区もみられる。シカの捕獲は年々増加傾向にあるが、個体数の増加速度に対して対応が追いついていないのが実情である。今後も継続してイノシシ、シカ対策用の侵入防止柵の設置、個体数を減らすため捕獲檻等の設置場所の再検討や増設、捕獲従事者の確保対策、捕獲奨励金交付などによる更なる捕獲頭数の増加を行う必要がある。	有害鳥獣の侵入防止の取り組みとして侵入防止柵の設置、固体数を減らす取り組みとして緊急捕獲を適宜実施しているが、それらの対策を行っても個体数の著しい増加に対応できていないものと推測され、依然として農作物被害面積・被害額は減らない状況である。有害鳥獣対策としては、侵入防止と個体数を減らす取り組みが重要であり、かつ、有効で あると考えられるため、今後も交付金事業等を活用し、継続して実施していく必要がある。	一定の事業実施効果は現れていると考えられるが、捕獲数が依然として多い状況は、個体数の増加が原因と考えられるので、引き続き、侵入防止策の未整備地区への設置、捕獲檻の設置場所の改善、捕獲強化の取り組みが必要である。また、実現可能で実効性のある被害防止計画になるよう見直しが必要である。
				捕獲用具の購入	R3 電気止め刺し　2基													
岩美町（岩美町鳥獣被害防止対策協議会）			シカ、イノシシ	有害鳥獣の捕獲	R1　シカ　546頭 R2　シカ　769頭　イノシシ　109頭 R3　シカ 1,027頭 R4　シカ 1,378頭　イノシシ　350頭	岩美町												
鳥取県	県内各市町村	R2～R4	イノシシ シカ サルほか	被害防止技術の普及及び人材育成活動	R2 捕獲力ｱｯﾌﾟ研修、鳥獣被害対策技能研修 R3 捕獲力ｱｯﾌﾟ研修、鳥獣被害対策基礎研修 R4 鳥獣害対策基礎研修、大型・中型獣類対策研修	県内全市町村			市町村が設置する鳥獣被害対策実施隊員や市町村、JA、その他の関係者に対して、専門家を講師とし、現物を教材にした現地指導などを行ったことにより、有害鳥獣の被害防止や捕獲技術の普及が図られ、それを担う人材の育成に効果があった。							各事業主体では難しいが、県内共通の課題である、鳥獣被害防止・捕獲技術の普及や人材の育成に対して、県として支援事業を行うことで、各事業主体が行う侵入防災対策や有害捕獲対策に一定の寄与ができており、こうした取り組みを継続していく必要がある。	鳥獣被害の発生地域の拡大や加害獣種が多様化している現状を踏まえ、県が実施する被害対策の効率化や的確な対策実施に向けた人材育成等に対する現場ニーズは高まっており、今後も継続的な実施が必要と思われる。	